

○議長(松室 猛君) 森山一正君。

(森山一正君登壇)

○森山一正君 再質問並びに要望をさせて頂きます。

大阪府下にある一つの町でも各市に比べて極端にいびつな状態にあるとすれば、それは本当の意味の大坂の発展にはつながらないと思います。私の地元の摂津に関する例ばかりを出して恐縮ではございましたが、まだ大阪のど真ん中にもこんなおくれた町があるんですよという意味で指摘をしたわけでございます。

数点にわたる都市基盤の整備につきましては、どれもハードなものばかりで、すぐには形にあらわれません。知事以下全職員が一丸となり取り組んで頂きますなれば、即解決可能なものがかりでございます。どうかさらに一段のお力を賜りますよう要望をいたします。

最後に質問いたしました教育の問題についてであります。文部省の指導要領が教育現場に行つてしまふと日教組の指針に変わってしまう、こんなことがごく当たり前になつていること自体に私は問題があると思うんです。その結果が、私が指摘しました授業時間を悪平等化するといった、本当に子供たちを無視した非常に次元の低い形であらわれてしまった非常に情けないことあります。こういう問題が起きますと教

二回目の質問を終わります。ありがとうございました。

(拍手)

○議長(松室 猛君) 教育長浅野素雄君。

(教育長浅野素雄君登壇)

○教育長(浅野 素雄君) 再度の御質問にお答え申し上げます。先ほども申し上げましたように、摂津市の小学校における持ち時間の問題につきまして、その実態を詳しく早急に調査をいたしまして、それに基づきまして今後のあり方を検討したいと存じますが、ただいまお示しございましたように早急に調査をいたしましてその内容を御報告させて頂きます。

○議長(松室 猛君) 森山一正君。

○森山一正君 自席から、時間がございませんので……。資料提出はわかりましたが、私の申しましたむしろ職員団体の方について厳しいメスを入れるべきではないか、そのことについては何らお答えがないけれども、答えられないと思ふますけれども、それくらいの姿勢でやっぱり臨まなくてはならない、そういうことについても強く要望しておきます。

○副議長(川村 三郎君) 次に、平野クニ子君を指名いたしました。平野クニ子君。

(平野クニ子君登壇・拍手)

育長は、各市の教育委員会を厳しく指導するという言を発せられるわけでありますが、ぱちぱちこんなことを、多数決という勝手な論理で無理強いてする職員団体のあり方にメスを入れるべきではないか、私は強く叫びたいわけです。教育

育長の強い決意をお聞かせ願いたいと思います。
ただいま指摘しました、この一つの町における実態を指摘したわけであります。私の手に入れました資料によりますと、各学校には二名ないし三名の担任以外の教師が派遣されています。今、教育長は担任以外の教師について何ら触れられませんでしたが、やはり本来担任以外の教師は専科教員として役職を果たすほかにも、先ほど述べましたように教師の不慮の事故の際にそれにとってかわって当たることも重要な任務ではないかと思います。この資料によりますと、担任以外の先生もみんなの先生と同じ時間数を平等に定期的に持たされている、その上に校長も四時間ないし六時間の授業を担当させている、こんなばかな話があつていいんでしょうか。

私は、摂津市のことだけを言いましたけれども、大阪府の各市でこういった実態がまだあるやに聞いております。次の委員会までに詳細なる各市の資料を提示願いたいと思いますが、その点についての御答弁もお願ひいたします。

○平野クニ子君 社会・民社・府民連合の平野クニ子でござります。

私は、本府の文化にかかる諸課題につきまして、知事並びに関係理事者に御質問を申し上げたいと存じます。

本府においては、昭和六十三年度から十年間を大阪文化創造の十年と定めまして、二十億円を出資をして大阪府文化振興財團の創設と、あわせて文化振興基金として六十億円を増額し、文化振興施策を重点的に推進することが今次定例会に提案をされております。

この文化振興財團の設立に際しまして、今回府の吹奏楽団である大阪府音楽団を廃止をし、オーケストラに衣がえをして、大阪府同財団が、オーケストラに衣がえをしてこの運営を行つとされております。

府音楽団は、昭和二十七年に発足をいたしまして、三十人の団員が小中学校の音楽鑑賞会や市町村の文化祭など、年間百五十回の演奏活動を行つてまいりました。

しかしながら、府民の音楽ニーズが多様化され、高度化する中で、府条例で出演料を低く抑えられてきた上に、編成の不十分さや団員の高齢化などの問題から、行革の対象としてその新たなあり方にについて検討が加えられてまいりました。その結果、有識者の意見も取り入れまして、バイオリンや